

来賓からの挨拶・注文

農・農業軸に世直し—貧困の連鎖との闘いを

大野和興（農業ジャーナリスト、脱WTO 草の根キャンペーン事務局長）

僕は今、三つの現場で活動しています。一つは、反グローバリゼーションの運動で、今、当面の敵はG8サミットということで、関生や未来の方は反貧困、非正規労働者の問題をやっていますが、私たちは自由貿易と食料危機の問題を東京、札幌でシンポジウムを開き、デモをやろうと考えております。

二つ目は、三里塚の青年行動隊でまだ闘っている残党の人たちと一緒に、今日のテーマの一つでもある農、あるいは農業ということを軸に世直しを考えていくことをやっております。三つ目、省きます。

いろいろやっているのですが、その中で、今、新しい農民の動きが出ていることをご紹介して、一緒にやれるところを一緒にやりたいと思っています。

その前に、食料危機について。いくつかの国で暴動が発生し、死者が出て、このままいくと、今8.5億人いる世界の飢餓人口が1億人積み上がるという状況があります。この問題について、色々原因があるが、これには貧困の連鎖にあると、僕は思います。畑も、農村も、それを加工する労働者も、調理する労働者も、それを食べる人も、全て今、貧困の連鎖の中にあります。

日本で言うと、米価はこの10年で半分になっています。去年の秋、東北の人ですが、借金をして大型になった10ヘクタール、15ヘクタールの農民が水代を滞納し始めています。米作り百姓が水代が払えないという状況が、生まれいる。それを加工する労働者は、先日、品川のすき屋の本社の前で、僕もビラまきに参加したんですが、アルバイトで働いている労働者に対して、「あんたとは雇用関係がない。あんたは個人事業主だから残業代を支払う必要はない」と突っぱねて、今、刑事裁判になっています。

食べる側は、年収200万円以下が全労働者の5分の1です。ある推計によりますと、生活保護以下で生活している人は全体の3割くらいで、その中には100万人を超える生活保護世帯は入っていない。なぜなら、生活保護を受けている人は生活保護基準以下ではないから。その人たちが今、食卓を囲んでいる。

そうすると、全てが貧困の中で、そしてその貧困の連鎖は、中国の百姓・労働者、アジアの百姓・労働者、そしてアフリカの百姓・労働者、全世界にまたがっております。食料危機の問題というのは、貧困の連鎖との闘いを組まない限り解決しない問題だと思っております。

今、東北のある村で、まるで地の底から湧き出るような百姓の運動が始まっております。昨年12月、深夜、僕が仕事をしておりましたらFAXが入り、「おれたち百姓は怒っている！」という黒々と大書した文書が入りました。そして、1週間後に自分の町の役場に集まるという緊急の寄り集まり。そのとき僕は、12月の年末だったのですが、その百姓の集まりに飛んでいった。その立ち上げは、二人の百姓の会話から始まって、1週間後に役場に集まったのは200人のその町の百姓衆。そして、年が明けて2月に

さらには、僕も行きましたが、町の農協のホールが満杯になっている。そういう状況です。そこには農民だけではなくて、その町の商工業者も参加してきている。そして、地域の資源を守ろう、もう一度町をつくり直そうという運動が始まっています。こうした運動が各地で今、起こりつつある。僕はそれに混ぜてもらい、参加し、立ち上げながら、それをどういう風に大きい運動に広げていくのか、ということを考えていきたいと思えます。

今日は、革命21（準）のスタート総会に参加させていただいたわけですが、一緒にやれるところは是非、一緒にやりながら、大きい運動をつくっていきたい。いいどもさんが言われました平成大恐慌、ピンチをチャンスに変える、世直しに持っていくという運動と一緒に参加していきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

「命を懸けてもいいな」という革命党を 稲垣浩（釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長）

新党結成への準備スタート、おめでとうござひます。

僕も、64になったけど、1970年の安保自動延長に反対する闘いで、大阪から行って電車の中で鉄パイプ・火炎瓶が回ってきて、火炎瓶も。で、原宿の駅を下りて、大阪の割とおっちょこちょいだから、鉄パイプを持って機動隊に突っ込んでいった。火炎瓶も投げたけれど、燃えないんですよ。燃えない火炎瓶をつくってどうするんだろうと思ったんですけど、その火炎瓶で自分がすべって、鉄パイプも機動隊に取られて、それでしばかれて、ということがあるんですよ。

やっぱり、「命を懸けてもいいな」という革命党を是非、つくって欲しいんですよ。今だったら、中々、掛け声だけで体を張ってやるという革命党は見当たらないから、僕も「やれ」言われたらやりますよ。

私もできるところは一緒にやっていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

〇〇——大庭伸介（静岡共謀罪、、、）

私は、大分前に全日建の指導下の組織にお世話になりまして、関生支部の学習会にも1年近く参加したことがあるものですから、今回、高さんから「出てこい」というお誘ひがあり、参加させていただきました。

私は、今、共謀罪法案の闘いをしています。これは、確か、足かけ7年か8年になると思うのですが、途中、2回廃案になっている。こんなに7年～8年も国会にかかっていてまだ決まらないという法案は戦前・戦後を通じて日本の国会史上初めてだと思ひますね。

共謀罪の説明はあえて省きますが、私は静岡で共謀罪が国会に正式に提案される以前

から街頭宣伝とかその他色んなことをやってきていて、毎月1回くらい街頭宣伝をやっているのですが、最初は非常に反応が弱かった。やはり継続は力なりでそれなりに手ごたえが出てきています。

例えば、一つの例を挙げますと、私がマイクを持ってしゃべっていたら、後ろでどうも高校生らしい若い男の声で2、3人でなんか色々しゃべっているんですよ。しゃべっている内容は聞き取れなかったんですが、とにかくうるさくてしょうがないから、ちょっと黙ってくれ、静かに聴いてくれと言おうかなと思っていたんですね。ところが、私の話が一区切りついたら、向こうが「おじさん、マイク貸してくれ」と言うんですね。それで振り向いたら、やはり制服を着た高校生でした。私は、ある意味でその場の空気に飲まれてしまって、マイクを貸した。そうしたら、「共謀罪反対」って一言言って行っちゃったんですよ。そんなこともありました。

私の経験というのはささやかなものですが、やはり、活動を積み重ねていけばそういう反応は絶対出てくると思う。特に、今の若い人たち。高校生とか、その世代というのは、頭の固い大人よりもはるかに柔軟な発想なり志向があるので、これは署名なんか取っていても、署名に一番応じてくれるのは、40歳から上の女性か、あるいは今言ったような若い人たちだと思います。いずれにしても、われわれは、先ほど「われわれの運動は全て少数から始めざるを得ないんだ」というお話がありました。その通りだと思います。しかし、同時に、やれば絶対に手ごたえがあるし、前進していく可能性があるということを日々のささやかな実践の中で感じています。それだけです。

お互いがんばりましょう。

労働者の運動を一つにする労働者政党の確立が必要

山元一英（全港湾大阪支部）

全港湾大阪支部の山元です。

実は、全日建連帯関生の皆さんとは、今、色々と一緒にやっています。

一つは、南大阪平和人権連帯会議や大阪ユニオンネットワーク、また武委員長が代表をやられています中小企業組合総研という中小企業のシンクタンク、あるいは生コンの関係では5労組の共闘があります。

また、保守2大政党制が小選挙区の中で進んでいますが、これに対抗すべく第3極をつくろうと、社民党と新社会党と緑のテーブルなどいわゆる議会政党の議員さんたちに労働組合しまして、近く僕たちの候補も含め統一候補をつくり出していこうと、やっています。

いずれにしても、私はまだ коммуニストになり切れていませんが、様々な労働運動、地域でやっている反戦なり市民団体の運動が、既成政党の下部組織みたいになっていて、あっちに協力するとこっちに角が立つようなことになっており、何とか一つにならないのかと考えています。労働者の運動を一つに持つていくためには、しっかりとした労働者の政党が確立しなければ、日本の社会を変える大きな運動体ができないのではないか。そう感じています。

そういう意味から、今日、革命21という名前になりましたが、「革命」という言葉を、今の青年がどういう風を感じるのか。あるいは、私たちは、高校時代ですけど、70年の安保闘争を経験していますから、その当時には革命というのを新鮮に感じていた。しかし、革命政党と言われる新左翼の政党があまりにもイメージが悪くて、「革命」と聞いただけでいいイメージが持てないという世代もおりますから、ふさわしい名前を発見する中で成長していただければなと、思っています。いずれにしましても、この集まりは重要なものであると思います。色々な闘いの経験がそういう先進的な部分の中で総括をされて、そして新しい運動に転嫁する。そういう発展をしていくことによって、社会を変えていく力が生み出されていくのではないかなと考えています。

私は、今日は個人として参加させてもらったので、組織の中に自信を持って提案していけるようになるのであればと思っていますが、そういう方向でがんばっていきたいなと思っています。

もっとわかりやすい言葉で革命を語れ

御子神 徹（精神科医）

精神科医の御子神 徹です。

さすがに関生からは来ていませんが、わたしのところに、管理職ユニオンとか全港湾とかから、解雇・リストラなどでうつ病になった人が、30人くらい来ています。

貧困や格差、雇用不安と言われる厳しい状況になってきましたが、「未来」紙にも書きましたけれども、僕は大きくやはりソ連の崩壊というものは大きかったんだなと思っています。というのは、やはり資本主義に対する対抗軸がなくなると、資本というのはどこまでも自分たちの利益を追求することができるようになってしまうことが証明されている、と思うんですね。

われわれは、先ほどもおっしゃっていましたがけれども、これまで非常に抽象的観念的な運動だったんだなと思っています。それと、大言壮語。やはり、社会情勢の時期というものをきちんと捉えるような運動というものでないと、だめだな、と思います。今、後期高齢者医療の問題も『未来』紙に載ったり、驚くべきことに、革共同中核派から分派したところの機関紙にも、後期高齢者医療の問題というのが出ているんですね。1面使って。そういう時代に入ったわけですね。

要するに、労働者への格差・貧困政策だけでなく、最早働くことも出来ない75歳以上の年寄りを「姥捨て山」に追いやるような、そういうことをはっきり宣言した医療制度なわけですね。そういうものが小泉・安倍時代を通じて、はっきりと打ち出されてきたわけですね。これによって、自民党・公明党のものすごい数の支持層が、非常に動揺している。しかし、そういうことがありながら、小泉の幻想みたいなものが残っている。残念ながら。それをまだ、『未来』紙も含めて暴ききれていない。ただし、1年前に比べれば、『未来』の紙面というのは非常に刷新されて読みやすくなったし、非常に幅ひ

ろい訴えかけができるようになってきたと思います。ただ、学生運動言葉が多くて、「あれじゃ、分からん」という人がほとんどだと思う。もっとやさしい言葉で正しいことを伝えることができるはずなのに、日本語の素養がない。もっと分かりやすい言葉で、本当に革命とは何なのかということを訴えることができるはずなのに、勉強が足りないと思います。これは、注文です。